

ファイザー(PFE)

豊富な新薬候補でブロックバスター拡大、買収で脱コロナ成長。新型コロナ・インフルエンザ混合ワクチンも有望

ニューヨーク | 大手製薬会社 | 業績フォロー

BLOOMBERG PFE:US | REUTERS PFE.OQ

- 2022/12期4Q(10-12月)は、売上が前年同期比1.9%増、調整後EPSが同44.3%増。新型コロナ経口抗ウイルス薬「パクスロビド」が業績に貢献。
- 年商10億USD以上の製品(ブロックバスター)が10製品に上った。新型コロナ関連2製品を除く4Qの為替一定の売上が前年同期比5%増と伸長。
- 豊富な新薬候補を背景としたブロックバスター拡大、有望製品買収による脱コロナ成長に加え、新型コロナとインフルエンザ混合ワクチンの開発も有望。

What is the news?

1/31発表の2022/12期4Q(10-12月)は売上が前年同期比1.9%増の242.90億USD、非GAAPの調整後EPS(1株当たり利益)が同44.3%増の1.14USD。為替ドル高の影響を除く売上高は同13%増に上った。更に新型コロナウイルス対応のワクチンおよび経口抗ウイルス薬を除く為替一定の売上が同5%増だった。

新型コロナ対応ワクチン「コミナティ」は、売上が同9.4%減の113.29億USD、営業増収率が3%増。新型コロナ経口抗ウイルス薬「パクスロビド」は、売上が前年同期のゼロから18.34億USDに上った。この2製品合計では売上構成比が同1.4ポイント拡大の54.2%、前四半期比でも1.6ポイント拡大した。

通期で「ブロックバスター(年商10億USD以上)」を達成した10製品とその売上高は以下の通り。①コミナティが前期比3%増の378億USD、②パクスロビドが189億USD(前期76百万USD)、③エリキュース(静脈血栓塞栓症治療薬)が前期比9%増の64億USD、④プレバナー(肺炎球菌ワクチン)が同20%増の63億USD、⑤イブランス(乳がん治療薬)が同6%減の51億USD、⑥ビンダケル(難治性神経疾患のトランスクリプター阻害剤)が同21%増の24億USD、⑦ゼルヤンツ(関節リウマチ治療薬)が同27%減の17億USD、⑧イクスタンジ(前立腺がん治療薬)が同1%増の11億USD、⑨エンブレル(関節リウマチほか自己免疫疾患治療薬)が同15%減の10億USD、⑩インライタ(腎細胞がん治療薬)が同横ばいの10億USD。

How do we view this?

2023/12通期会社計画は、為替一定の売上が前期比29-33%減の670-710億USD、為替一定の調整後EPSが同47-50%減の3.25-3.45USD。コミナティが同64%減収、パクスロビドが同58%減収とし、この2製品を除く為替一定の売上高を同7-9%増(前期実績:2021年度比2%増)としている。

パクスロビドが中国で4月から医療保険適用外となったものの、ブロックバスター製品の中でエリキュース、プレバナー、ビンダケルの成長継続、および昨年買収した2社のうちバイオヘイブンのヌルテックODT(片頭痛薬)、グローバルブラッド社のオキシブリタ(鎌状赤血球治療薬)の大型商品化が期待される。

豊富な新薬開発パイプラインも含め、新型コロナ対応製品を除く持続的成長へ基盤とともに、新型コロナワクチンについても重症呼吸器疾病予防を目的としたインフルエンザとの混合ワクチンの臨床試験の動向が注目されよう。

業績推移

※参考レート 1USD=133.68円

事業年度	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12F	2024/12F
売上高(百万USD)	41,908	81,288	100,330	68,850	70,730
当期利益(百万USD)	9,616	21,979	31,372	15,848	18,191
EPS(USD)	1.71	3.85	5.47	2.86	3.23
PER(倍)	24.44	10.85	7.64	14.61	12.94
BPS(USD)	11.36	13.74	17.03	17.03	17.80
PBR(倍)	3.68	3.04	2.45	2.45	2.35
配当(USD)	1.53	1.56	1.60	1.64	1.72
配当利回り(%)	3.66	3.73	3.83	3.92	4.12

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(USD)	1.64	(予想はBloomberg)
終値(USD)	41.79	2023/4/11

会社概要

1849年創業の製薬会社で、2021年以降は新型コロナウイルスのワクチンと治療薬の貢献で製薬会社の売上高世界首位。

2020年に「特許切れ薬品(アプジョン)事業部」を切り離し、2022年第3四半期(7-9月)より「グローバル・バイオ医薬品事業(バイオフィーマ)事業部門」の下で、「プライマリーケア」、「スペシャルティ・ケア」、「オンコロジー」の3事業から構成される。

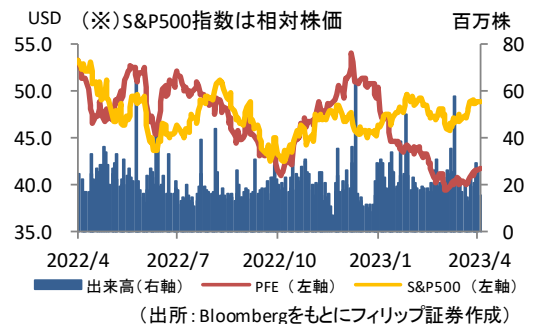
①プライマリーケア事業は、「インターナル医療」、「ワクチン製品ポートフォリオ」、「新型コロナウイルスの予防および治療」、「潜在的な将来のメッセンジャーRNA(mRNA)および抗ウイルス製品」を含む。

②スペシャルティ・ケア事業は、「炎症・免疫」、「希少疾病」、「病院製品(除く新型コロナ経口抗ウイルス薬パクスロビド)」を含む。

③オンコロジー事業は、腫瘍・がん治療薬を対象とする。

企業データ(2023/4/11)

ベータ値	0.71
時価総額(百万USD)	235,880
企業価値=EV(百万USD)	252,449
3ヵ月平均売買代金(百万USD)	965.7



主要株主(2023/4)

1.VANGUARD GROUP	8.89
2.ブラックロック	7.85
3.CAPITAL GROUP COMPANIES INC	5.68

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiko.sasaki@phillip.co.jp
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元：フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者：公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。